

原 著

当院における80歳以上の高齢者開腹手術症例の検討

長 田 俊 一, 山 本 晋 也, 谷 口 浩 一, 清 水 大 輔,
窪 田 徹, 長 堀 優, 小 尾 芳 郎, 阿 部 哲 夫

横浜市立みなと赤十字病院 外科

要 旨: 当院で行われた80歳以上の外科開腹手術症例101例について原因疾患, 併存疾患, 手術, 手術時間, 出血量, 術後合併症, 再手術率, 在院死亡率, 術後在院期間について検討した. 悪性疾患51例, 良性疾患50例であり, 併存症は74例 (73.3%) に認め, のべ131疾患中55例 (42%) が心疾患であった. 手術時間, 出血量および術後在院日数を80歳未満の症例と比較すると術後在院日数が有意に遷延していた. 再手術症例は4例 (4.0%), 死亡症例は4例 (4.0%) に認め, 全例悪性疾患であった. 悪性疾患のうち, 大腸癌は25例, 胃癌は17例で, 腹腔鏡下大腸切除が少なく, 胃全摘症例が多く, 80歳未満の症例と比べ, 手術時間の短縮を認めなかった. 死亡症例の検討より, 嚴重な術前心機能評価, 術前栄養評価と低侵襲術式の選択が必要と考えられた.

Key words: 高齢者, 術後合併症